

林心小煩遊

永代経 法要

五月八日(日)

午後一時より

読経(衆僧供養)

法話

おとぎ

当山順正寺では永代経志を左記に定め、順正寺永代経過去帳に記載し永代供養致しております。ご希望の方は住職までお申し出下さい。

* 特別永代経 (毎月ご命日読経、祥月命日特別読経) 志納金参拾萬円以上

* 永代経 (毎月ご命日読経) 志納金壹拾萬円以

上

風薫る五月、貴家皆様にはご健勝にてお過ごしのことと存じます。

さて、例年のとおり「永代経法要」を厳修いたします。

「永代経」とは、「私」が子供や孫そして子孫の幸福を願うと同じように「私」に幸せで在って欲しいと願って下さっている仏となられたご先祖に感謝の思いを込めて勤める大切な行事です

常日頃、生活の多忙さにかまけて、つい忘れていらっしゃるご先祖のお蔭に気づき、仏恩報謝のひと時を共にすごしましょう。

○「永代経」です。お釈迦さまは総ての事象は「縁」

によると説いています。「縁」による以上始まりもなければ終わりも有りません。遠い遠い昔から、遙かな未来まで生滅変化を繰り返していくのがこの世であり私たちの命です。その限りないつながりの時間を「永代」と言います。その中でたまたまの縁で「人」として「わたし」としてこの世に生を受けました。

また「刹那」、「せつな」の「刹那」ですが元はインドのことばで、指を一回はじくあいだに六十五刹那あるといわれ、極めて短い時間の単位です。この一刹那に縁によって生滅を繰り返していると考えます。その短い時間の過去、現在、未来いつでもどこでも仏さまは「教え」として働いてくださっています。

「永代」という言葉は単に長い時間を顕す言葉ではなく、苦悩の衆生が存在する限りいつでも、正に今この一瞬にこの私に皆さん方ひとりひとりに「仏さまが」働きかけてくださっている事を顕します。この「縁」と「刹那」を大事にしたいものです。

○菜種梅雨と云うらしい。まったくもってうつつとう

しい。スカッと晴れると思う。皆さんどうですか。私は読書中毒で本読みまくる、でも実は読むもの、すぐく偏っています。悲しい物語、悲惨な物語はま

ず苦手です。楽しい物、明るい物が好きです。

先日、ラジオで東日本大震災とそれに伴う原発事故に関するコメントで心理学の先生が言っていました。

「人間は、悲惨な事、苦しい事から自然と目を背ける」反対に「威勢が良い、元気な言葉に耳を傾ける」

だからみんな震災の今も続く悲しみを忘れてしまう。

福島から東京まで三百キロ、放射能は軽く届いた、いま稼働中の原発に何かあれば日本中逃げ場はない。

核廃棄物の処理はまったく出来ない。それでも再稼働が必要なのか。

自衛隊以外に武器の使用はしないからこそ「自衛隊」の勇氣と活躍は世界で称賛され信頼された。

「繁栄」「強い日本」「経済再生」などの耳に心地よい言葉が好きだ。そして本当に考えなくてはいけない事柄がかき消されてしまう。愚かで情けない。

住職

あなたは何がほしいの？

なぜ浄土真宗でなければいけないのか？

真宗大谷派の東京のお寺は、地域を8つにわけて、東京一組と八組とそれぞれ名付けています。そのどこかに東京都の真宗大谷派のお寺は所属しています。

で、わたくしどものお寺は、東京七組という組に所属しています。その東京七組で、このたび、教化テーマというものを作りました。それがタイトルの言葉です。

これは、「生活していく中で、なにかにつまづき悩んだ時々に戻っていく言葉」「生活の中で気づきをくれる言葉」として掲げたものです。

現代の日本、いや、最近の日本の社会をみると、わたし達の生活は、ますますもって物が足りなくなってきたようです。

手に入るものは何でも欲しがり、手に入りにくいものを是が非でも欲しがり、手に入らないものこそますます欲しがります。欲求は止むことがありません。それどころか増幅しています。どれだけ裕福に、どれだけ物が溢れようと、わたし達の欲求を満たすことはできません。

5年前の東北の大震災の際に思い知らされた「豊かさ、便利さゆえの闇」という事実と反省。「知足(足るを知る)」ということも言われました。しかし、たかだか5年で、わたし達は、豊かさと便利さの闇を生きる社会を良とする、反省を生かすことができないう社会へ復興していく方向へ進路を取っています。震災以前にもまして欲望を募らせ、「足りない足りない」と、日々を生きています。日々、ものが豊かになればなるほど、満たされなくなっていく社会では、「何がほしいのか」などということばはやけてしまいます。「なん

でも欲しい」のですから。

相田みつをさんが「ある日自分へ」という詩を書かれています。

おまえさんないま一体何が一番欲しい

あれもこれもじゃだめだよ

いのちがけでほしいものを

ただ一つに的をしぼって言ってみな

いったい、わたし達にとって、命懸けで的を絞って言える、それさえ手に入ればもう何も欲しがることが無くなる、満たされる、「いちばんほしいもの」は何でしょう。夢中で行き当たりばつたりの生活をしているわたし達への、道しるべとなる問いです。一生かけて探し出す必要がある「ほしいもの」。それを見つけていく歩みは、一つ一つ足りないものをそぎ落としていく作業です。欲しいものを突き詰めていくと足りないものが分かってきます。最後に何が残るのでしょうか？それがはつきりしなければ死んでも死にきれません。

親鸞聖人は、それを自らの生活に問うていくことが「浄土真宗」の歩みであると示してくださいました。

親鸞聖人は、法然上人に出会い、「南無阿弥陀仏」の法に出会い、ただお念仏することを中心に生きられました。「

親鸞聖人の歩みは「お念仏」を中心とした生活を過こされたというだけで、決して特殊なものではありませんでした。ただ、生活に「お念仏」という不動の「核」となるものがあつたので、常に立ち返ることができたのです。しかしわたしたちは、そこに領けないのです。常に浮遊する自分の価値観を「核」としていません。

一緒に、浄土真宗の教えをたよりにして、「わたしがほしいもの」を探し出す生活をしてまいりましょう。

私の使っている手帳は「ほぼ日」というものだが日割りの各ページに色々な人の「ことば」が載っている。

女優の宮沢りえさんのことばが良かった

「人生のおもしろさを子どもに伝えるのは、ちょっと自信あります。「苦難や試練はごほうびだ」っていうのは、言葉でどんなに言っても、子どもには伝わらないと思うんです。でも、数々あったわたしが、いろんなことがあったんだけど、それらをぜんぶひっくるめて、目の前でたのしそうにしているってことは、子どもにもわかるじゃないですか。やっぱりたのしいですもん、生きていて。」

だよね。私が子供のころ、この国はもっと貧しくてぐちゃぐちゃだったけれど私の親を含め大人は楽しそうだった。だから、早く大人になりたかった。

今、私たちは「たのしそう」かい？

住職からのお願い

今東京では火葬場が不足しています。皆さんご経験のとおり通夜葬儀の日程はお寺の都合より火葬場の都合が優先されてしまいます。その為ご法事の時間のお約束を頂いていても変更をお願いすることが有ります。葬儀をお勤めすることはそのお家の方にとって一生の一大事です。そこは相身互い、どうかご寛恕下さいますようお願い申し上げます。

定例行事

聞法会

毎月2日 午後7時より2時間ほど

現在、鉛筆写経と法話、座談会やっています

歎異抄を読み聞かす会、グリーンケアの会「微妙音」

毎月5日午後7時

白色白光の会（婦人会）毎月第2木曜

お経の練習と法話と茶話会です

浄土真宗はじめて講座

二月、四月、六月、十月、十二月

の第2土曜午後2時より5時まで

順正寺

住職 江口 貫正

東京都練馬区石神井町三丁目十七番四号
TEL 三九九六一二〇六四
FAX 三九九六一二〇七五